

「非婚・少子社会への視座—若者の意識・家族政策の変化と少子化の現状—」

永井 暁子

永井：これから現代女性キャリア研究所のシンポジウム「非婚・少子社会への視座」を始めたいと思います。では、簡単に今回のシンポジウムの趣旨について説明させていただきたいと思います。

今回のシンポジウムの趣旨ですけれども、さまざまな問題として少子化がいろいろな関心と呼んでいるところではありますが、少子化の中の一番大きな要因として非婚化が一番大きいのではないかと注目されているところかと思っています。非婚化・少子化が進む日本社会において、非婚化が進む背景には何があるのかということを、政策という点と意識の両面から見ていこうというのがこのシンポジウムの趣旨となっています。

これまでに国や自治体におきましてもさまざまな施策が実施されてまいりまして、現在では自治体がマッチングアプリを運営しているような時代となっています。今回は、これまでの少子化対策の流れを簡単に振り返り、韓国など他の東アジアの国ほど日本では出生率が低下していない理由から日本の将来の展望を見いだしつつ、人々の家族形成に関しての危機感がどのあたりにあるのかということにまで掘り下げていければと思っています。皆さま、短い時間ではありますが、今日はどうぞよろしくお願いします。

では、簡単に私から説明させていただきたいと思います。よく目にすることが多いかなと思います 50 歳時の未婚割合のグラフです。こちらは実線が女性になっていまして破線が男性になっています。結婚問題に関しましてはこれまでも長くずっと議論されてきた問題ではあります。上を行っている実線の女性のほうが未婚者が多かった時代です。1970

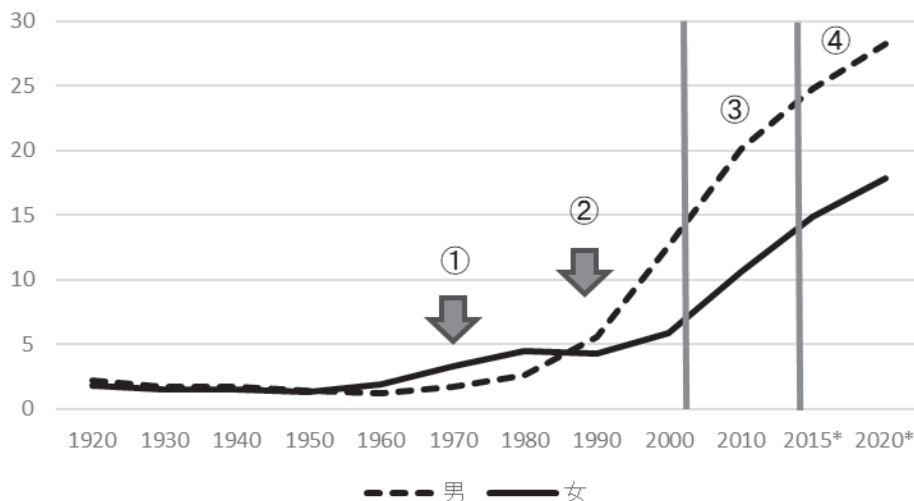


図1 50歳時の未婚割合の推移

注) 総務省統計局『国勢調査報告』により算出。45～49歳と50～54歳における割合の平均値。*不詳補完値に基づく。

データ) 社会保障人口問題研究所「人口統計資料集(2023)改訂版」

年の頃に 50 歳ぐらいを迎えているということですから 30 年ぐらい前は 20 代ということで、そうしますと 1920 年代生まれの方、つまり、①と書いてある戦後の結婚難の世代の方々、特に女性の問題といわれるところを示していると思われます。②は農村の嫁不足といわれているところが現象として現れているかなと思います。そして、今日、議論されるところは、2000 年代以降、顕著に 50 歳代の未婚率に表れているものはいい人に巡り合えない世代と考えられた時代ですね。そして、現在、2015 年以降の若者たちに見られているのは結婚しなくてもいい世代です。そういうふうに仕切りができるのではないかなと思います。

ただ、ポイントとしましては、50 歳時ということで何歳の時を若者として登場させるかということは非常に難しいですので、このグラフからは曖昧な説明になってしまいますけれども、大体 4 段階ぐらいあるのではないかなと私は考えています。

社会問題として登場したのが戦後の結婚難の問題です。戦争によって男女の人口比が崩れまして女性が結婚の機会を逸した状況が数字になって表れているのが①の部分。②は 1960 年代の山間部の嫁不足から始まって 1970 年代から農村の嫁不足が広がっていったという問題ですね。現在でもそれらは解消しているというわけではないのですけれども、それ以降は、少子化問題の対応としての結婚問題、地域を超えて未婚者が増加していったという社会問題としての結婚難の流れということになるかと思います（③）。そして現在の未婚化の減少は 2000 年代とは様相を異にしているのではないのでしょうか（④）。

社会保障・人口問題研究所の「出生動向調査」の 2000 年以降の未婚者の結婚の意識について、男性の回答を見てみますと「一生結婚するつもりはない」という割合が一貫して上昇しています。そして、2015 年以降を見てみますと女性の「一生結婚するつもりはない」という回答割合が上昇し、男女ともに「いずれ結婚するつもり」と回答する人たちの割合の低下が見られるという傾向があるのです。未婚化の様相がここにきて大きく変化した、あるいは顕在化してきたのではないのでしょうか。

そして、少子化対策としてこれまで結婚問題は語られてきまして、それがいいかどうかということは別なのですけれども、少子化対策の中での結婚問題の位置付けについて見ていきたいと思います。

エンゼルプランとして出てきているところでは、女性の仕事と家庭の両立が難しいということや育児の心理的・肉体的な負担や住宅事情、子育てコストが増大しているということを問題としてきました。

そして、2000 年に入ってから女性の仕事との両立や再就職の難しさなどがあります。この頃は、たらい回し出産といいますが、なかなか出産できないといいますが、飛び込み出産の問題が出てきた頃ですが、不十分な出産事情、教育費や学費の負担について問題にされていました。

そして、子ども・子育て応援プランでは、2005 年から 10 年ごろに入ってきたところで若者の雇用問題に着目しまして、結婚の問題として結婚したいけれどもできない人がいるという視点と家庭の養育力の低下があるのではないかということ、そして、生命の大切さや家族役割をきちんと理解してもらおうべきだといったことが少子化対策の中に盛り込まれるようになってきます。

そして、2010 年からの子ども・子育てビジョンにおきましては、若者の雇用問題と子

どもの貧困について取り上げられ、そして、ここら辺から男性の長時間労働や労働環境の悪化が取り上げられまして、男性の育児についての社会の関心が徐々に出てくるようになります。

そして、2015年以降の約5年間に关して言いますと、共働きが増加しているのではなかなか出産が難しくなることや子育てコストが増大するという、男性の長時間労働が難しいといったところになるかと思ひます。

2020年以降は、コロナの影響もいろいろとあると思うのですが、経済的な問題が着目されるようになってくると同時に、出会いの機会の不足が盛り込まれてきます。現在の少子化対策におきましてもほぼ同じような枠組みだと思ひのすけれども、出会いの機会の不足について支援する政策が必要だと考えられているということです。

表 1 少子化対策の変遷

1995-1999	エンゼルプラン	女性の仕事と両立の難しさ、育児の心理的肉体的負担、住宅事情、子育てコスト増大
2000-2004	新・エンゼルプラン	両立・再就職の難しさ、不十分な周産期医療、教育費・学費の負担
2005-2010	子ども・子育て応援プラン	若者の雇用問題、両立の難しさ、育児負担、家庭の養育力低下、生命の大切さ・家庭役割理解、孤立した子育て
2010-2014	子ども・子育てビジョン	若者の雇用問題、両立の難しさ、子どもの貧困、男性の長時間労働、労働環境の悪化
2015-2019	第3次少子化社会対策大綱	共働きの増加、子育てコスト増大、男性の長時間労働
2020-2024	第4次少子化社会対策大綱	経済的問題、出会いの機会不足、男女の仕事と家庭の両立の難しさ、孤育て、子育て費用の負担
2024-	子ども大綱	経済的問題、出会いの機会不足、男女の仕事と家庭の両立の難しさ、孤育て、子育て費用の負担

では、結婚問題に关してこれまで何の政策も行われていなかったかといひますとそうではないということですね。政策をうつべきかどうかということは別にしまして、今までどのようなことが行われてきたかという、たとえば、図1の②で示した農村の嫁不足に関連しますと、農業関係団体などによる結婚相談員の支援、市町村の行政による結婚仲介がこれまでも行われてきました。また、出会いが少ないことが都市においても言われるようになってきてからは、街コンなど、地域振興を兼ねた出会いを見つけるイベント支援が行われるようになってくるとともに行政が結婚仲介に力を入れるようになってきました。

おおよそ2015年以降、結婚新生活支援事業費補助金や地域少子化対策重点推進交付金などにより、子育て支援や自治体による婚活支援や新婚の方に生活補助をするといった様々な支援が行われるようになってきました。そういう形で、かなり税金を投入して、結婚問題に关しましては、今日に特有ということではなく、かなり以前から行われてきたということです。ただ、これについての政策評価が十分に行われてきていないことも事実です。研究者が政策評価をしている論文は幾つか散見されますが、行政では何が効率的だったかということは十分に評価されていないといひてもよいかと思ひます。

こういった点を踏まえまして、政策の面や若者の意識という面から、今、なぜ若い人が結婚したくないのか、家族形成に対して嫌だと思ひているのかというところを考えていけ

ればと思っています。

そして、これから報告していただきますのは、まず第1報告は金先生になります。金明中先生は労働経済学や社会保障論をご専門にされていまして、日本や韓国の少子化問題あるいは政策に関しましていろいろなメディアにも出ていらっしゃるご存じの方も多いかなと思います。

第2報告は本学の社会福祉学科の林浩康先生です。児童福祉政策における親責任や家庭の強調とその影響につきましてご説明していただきます。林先生は児童福祉の専門家で、特に社会的養護についてご専門です。

第3報告は武蔵大学社会学部の千田有紀先生です。若者の結婚観や恋愛観の変容を説明していただきたいと思います。千田先生は家族社会学のご専門で歴史的な観点から家族の変容などにつきまして分析されています。また、著書なども多数あります。

先生のご報告を30分ずつ頂いてから質問を受け付けまして、その後にディスカッションとなりますので、それまでの間に質問などを頂ければと思います。